

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年3月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690800109
法人名	出水市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム野菊
所在地	鹿児島県出水市野田町下名7026-2 (電話) 0996-64-9222
自己評価作成日	令和4年1月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・既往歴や在宅生活の状況等を知ること、その方の生活感や価値観を他大切にしながら生活できる様に、また、新型コロナウイルスにて面会等に制限等もあるが、可能な限りの面会の実施やオンライン面会、電話等での交流や毎月の家族への近況報告等を実施し、家族との関りを重視していきます。

・利用者が満足できる様に、可能な限りのスタッフの配置や受け持ちスタッフによる個別の支援を重視しています。

・季節、月ごとの行事、誕生日等を大切にしながら、楽しみや地域との交流を交えながら、社会とのふれあいが多くなる様にしています。

・近隣の医療機関→ 調剤薬局と協力し、健康管理に力を入れています。

・寝具やシーツ類も専門業者が定期的洗濯等を実施して、清潔な環境で生活できる様にしています。

・経済的負担が大きい方々も利用し易い様に、利用料の設定になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「入居者様の自尊心を尊重し、ご本人やご家族の希望を大切にします。日常生活活動の中で、できる事を大切に、一人ひとりが役割を持って生活する喜びを実感できるよう支援していきます。」を理念に掲げ、職員会議等で理念の共有や実践につなげているかを振り返る機会を設けている。特に理念の中の「自尊心の尊重」を大切に支援につなげたいと考えており、日頃から虐待や拘束のないケアを提供することができれば自然と自尊心に配慮したケアにつなげられると考え、日々の支援に反映させている。

農業に詳しい利用者の指導を受け、冬は大根や白菜、ブロッコリー、夏はトマトやレタス、すいか等を畑で育て、利用者と一緒に収穫して食材として利用している。また、屋外でホットプレートを使ってお好み焼きを作ったり、おいどんがサロンのボランティアメンバーと共に焼き芋会を開催する等、食事が楽しい時間になるよう工夫している。

コロナ禍ではあるが、地域の理解や行政との連携を図る機会を大切にしたいと考え、感染症対策を十分に行った上で、2か月に1回の運営推進会議を開催している。会議では事業所の活動状況やヒヤリハット、時期予定等についての報告と説明を行うと共に、コロナワクチンの接種状況についてや、原子力防災訓練についての意見をもらう機会につなげることができている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	運営理念に沿ったサービス提供が実施できる様に、事務所、ローカに理念を掲示し、また、職員会議等にて、理念に掲げる自尊心の意味を理解し、理念を共有し、実践につなげている。	「自尊心の尊重」を理念に掲げ、職員会議等で振り返る機会を設けている。虐待や拘束のないケアができれば自ずと自尊心に配慮したケアにつながると考え、日々の支援につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し、回覧板や広報誌の配布、自治会費の集金等を当番で実施している。地域老人クラブ、児童クラブ、地域のボランティア活動等にて地域の交流を図っている。	コロナ禍のため、ホームの敬老会へのボランティアの参加は控えてもらいできなかったが、屋外作業として門松作りや焼き芋交流会に地域で活動している「おいどんがサロン」のボランティアメンバーと交流することができた。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	小中高生のサマーボランティア、介護福祉科の実習生、老人クラブボランティア等の受け入れをしている。また、野田地域包括運営推進会議に参加し、地域の認知症理解に努めている。（新型コロナウイルスにて保留中）		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、ご家族、近隣住民、自治会長、地域老人クラブ会長、民生委員、市役所担当者等の参加を得て定期的に開催し、施設の状況報告等を行い、助言等頂き、施設運営に活かしている。（新型コロナウイルスに入所者不参加中）	家族や民生委員、自治会長等、地域代表、行政職員等が参加する会議を2か月毎に実施し、ホームの活動状況やヒヤリハット、次期予定についてを報告している。2月に行われた原子力防災訓練や外部評価の結果等についても適宜報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加、施設の現状の報告や相談等を実施している。地域包括支援センターより講師を依頼し、虐待、権利擁護等の研修会を開催している。困難事例時等は行政に相談し助言等を頂いている。（新型コロナウイルスに外部講師は中止中）	ホームは社会福祉協議会が運営していることもあり、行政とのつながりは大きく、日頃から電話や訪問により助言をもらっている。また、介護職員不足の問題や滞納の相談に丁寧に対応してもらうなど、日頃から協力関係を構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月1回程度の身体拘束委員会を開催し、研修会や勉強会にて身体拘束の弊害等の知識の向上を図っている。介護変更時はカンファレンス等を開催し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。センサーマット使用についても定期的に必要性を検討している。	身体拘束委員会を定期的に開催し、ケアの弊害や身体拘束のないケアについて確認すると共に、スピーチロックや指示的な言葉遣いについても、保護のために緊急的に遣ってしまうことがあるが、本来は拘束であることを理解し、認識しておくことを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回外部からの講師を招き研修会を実施する様に計画している。また、毎月の職員会議等で虐待防止について啓発等を実施している。（現在新型コロナウイルス関係で施設内研修実施）		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターからの講師を依頼し、権利擁護等に関する研修会を計画実施している。また、職員会議にて権利擁護、虐待の無いケアを取り組むことを啓発している。（現在新型コロナウイルス関係で施設内研修）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分は時間を取り、本人やご家族に理解して頂ける様に質問等を受けながら、必要に応じて具体的事例を用いながら納得して頂ける様な説明を心掛けて実施している。介護保険改正時等は文章により説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者に何かあった時は直ちにご家族へ連絡し、ご家族の意向等を確認しながら対応している。面会時や電話連絡時にも入所者の状況を報告する様に心がけている。ご家族からの要望等は可能な限り実施できる様に務めている。	電話や面会に来られた際に家族の意見を伺い、本人家族の意向としてケアプランにも反映させ支援につなげている。また、担当者会議や運営推進会議の際にも家族の意見や要望を尋ね、可能な限り対応できるよう努め、今後の運営や支援に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や 朝のミーティング等を通じ、職員からの要望や意見等を聴取しながら業務運営をしている。毎月の行事も担当職員の起案にて実施している。また、勤務希望等にも拝領しながら勤務表作成を実施している。	管理者は日頃から職員の意見や提案に耳を傾け、積極的に意見を取り入れている。職員の気付きや提案は、その都度メモ用紙に記入して話し合いにつなげ、申し送りノートにまとめ、職員全員が閲覧し署名して実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算、昇給や通勤費の支給、賞与等で労働条件の改善を図り、時間外労働の発生をできる限り少なくしている。ケア以外の係り等の活動には短い時間でも時間外手当を支給している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修を受ける機会を設けている。研修会に参加できなかった者も、研修報告書等で情報の共有を図っている。また、職員の状況に応じた研修会の紹介等を実施している。資格取得時は、金銭的助成制度を設けてある。研修時の時間外手当の支給も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡協議会に加入し、研修会への参加や情報交換等実施している。野田地域包括ケア連絡協議会にも参加し地域の介護事業所との活動を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活状況を知る為に、可能な限り情報収集を実施している。また事業所での面談を通じて困りごとや不安、要望等傾聴し入居により以前の生活を切り離すことが無く、これまでの生活が継続できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった時点で、ご家族の入居申し込みに至るまでの思いを傾聴し、家族の思いを理解することで信頼関係が構築できる様に努めている。また、専門的見解にて課題の解決ができる様に支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時点で、満床で受け入れが困難な場合は、介護の相談を受け、不安の軽減や助言等実施している。また、在宅の介護支援専門員と連絡を取り情報交換を実施し他のサービス利用等も含めて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護者であるとともに、生活のパートナーとしての役割を持ち、ともに悩み考えることを念頭に置きながら、一緒にできることを行う事の意味を話し合っている。受け持ち制を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居によりご家族との切り離しを図るのではなく、ケアプランの中に家族としての役割も含めて、これまでの生活、家族関係が継続できる様にしている。状況によって電話や面会等依頼している。（新型コロナウイルスにて面会制限もあり）		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きながら、遠距離に住んでいるご家族からは、手紙や電話等による情報交換を行っている。また、近隣の知人の訪問やボランティア訪問時はできる限り会話の機会を多く持てる様に工夫している。	家族の協力によりお墓参りに出かけたり、受診や受診帰りに外食を済ませてホームに戻られる利用者がおられるが、一部の利用者に限られている。コロナ収束後は自由な面会や外出、地域交流を再開させたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座る位置は、認知症の症状に応じて座れる様に工夫し、気が合う方と反発し合う方等、必要に応じて職員が間に入ることでトラブル発生を防ぐようにしている。食席等も工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移った場合は、職員が面会に伺ったり、住宅復帰となった場合は、電話による声掛け支援を実施し、携帯電話で24時間いつでも相談できるように契約終了時説明している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを伺ったり、日々の関りの中から言葉や表情から、一人ひとりの思いや暮らし方の意向を把握できる様に、朝の申し送り、カンファレンス等実施している。スタッフの受け持ち制を実施し、個別ケアを大切にしている。	本人の思いや意向に加え、趣味や特技、生活歴等を詳細に聞き取り、知っておくことで会話に発展し、笑顔ある暮らしにつながると考え支援している。また、利用者を深く理解できるよう 1 年毎の担当制にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人やご家族からこれまでの生活習慣や趣味、楽しみ等の情報を得ている。また新しい情報は共有できるようにしている。入所時のアセスメントを重要視している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活時間の違いに目を向け、就寝や食事の時間等を制限することが無い様に情報の共有を図り、ケアに反映できるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カードックスを用いた申し送りを実施し、問題が発生した場合などは速やかにカンファレンスを開催し、支援の方法等を検討している。入居者をスタッフの受け持ち制として、受け持ちスタッフが、毎月モニタリングを実施し、支援に活かしている。	本人家族の意向を基に、担当職員によるモニタリング評価や主治医の意見も参考にしながらケアプランを作成している。プランには必ず家族の協力を組み込むことで家族との関係を大切にし、家族に担当者会議に参加してもらいケアプランの説明、同意をもらい交付している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態、ケアの提供、その結果は個別に記録に残し、職員全員の情報が共有できるようにし、介護計画に反映でき、必要に応じて介護計画を見直している。細かな変更や支援は申し送りノートの活用で統一した支援に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時は家族と一緒に受診の立ち合いをし、情報の提供等実施している。また、家族が遠方の方は、代理の事務手続き等の支援をしている。地域の老人会やボランティアの方々等との交流をしている。 (新型コロナウイルスにて制限中)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方々等の協力及び交流の機会ができる様に取り組んでいる。また、近隣の施設と交流を実施している。 (新型コロナウイルスにて制限中)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的にかかりつけ医は入居によって変更はしないが、本人、ご家族の依頼で協力医療機関への変更し定期的往診を受けている。臨時の受診が必要時は家族の依頼の元、受診の支援をしている。他病院受診必要時は一緒に受診し情報提供等を実施している。	多くの利用者が協力医療機関を主治医とし、定期的に訪問診療を受けている。また、かかりつけ薬局とも日々連携を図りながら、利用者の健康管理に努めている。他科受診については、家族と職員が協力して受診を支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が申し送り、ミーティングで介護職員との情報の共有を図り、処方薬の変更等があった場合は、申し送りノート等で情報の共有をしている。看護師は事業所の携帯電話にて夜間や公休時等、介護職員への助言、指示等実施している。往診時は事前に情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急に入院となった場合は、看護師、管理者が付き添い、入院に至るまでの経過と日常生活状況等情報提供を行っている。文章での情報提供も実施している。また、長い入院時は、職員が面会に伺い、病院職員との情報交換等を実施している。 (新型コロナウイルスにて制限中)		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のケアに関しては「看取りの指針」で利用者のご家族への説明をしている。ご家族、主治医の意向等も確認して実施している。	契約時に看取りの指針を説明し、同意書を交わすと共に、入居後も状況に応じて家族や医師との話し合いを繰り返しながら重度化の対応や看取りの支援内容を決めている。過去の看取りの事例では、話し合いや研修による意識改革により、終末期は落ち着いて支援につなげることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故等の発生時のマニュアルを供えている。また、看護師等による事業所内での研修会等を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練、防火訓練は年2回実施する様に計画し実施している。夜間を想定した防火訓練等を実施し、消火器やスプリンクラー等の定期点検を実施している。非常用電灯、非常用発電機の準備もしてある。地域の消防団が速やかな対応ができる様に施設内の把握を実施している。	年2回、夜間想定を含む火災訓練を実施している。以前、消防団員にホームを見学してもらったことがあり、内部構造の理解につなげている。備蓄として飲料水や食料を数日分程度準備すると共に、懐中電灯やラジオ、発電機も備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
苗					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方もきちんと名字で呼び、一人ひとりの人格を尊重し、言葉使いに注意している。月1回の職員会議等で、理念である自尊心を尊重し、人権尊重の啓発等を実施している。	認知症やプライバシーに関する内部研修を実施すると共に、新人研修として1日オリエンテーションにおいて接遇等の理解につなげている。トイレ誘導や排泄時の見守りの際は、羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉による表現が困難な利用者には、話し易い環境を作り、利用者に応じた話し方や説明を行い、日常生活の中から本人の思いや希望に添える様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切に、ゆっくりとした時間の流れの中で、過ごして頂ける様に利用者の希望を傾聴しながら支援している。スタッフも多く配置している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人と一緒に衣類を選択し、時にはお化粧したりなど、おしゃれを楽しめるよう工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的料理の工夫や、その方に応じた食事や食器等の工夫をしている。時々利用者の要望を聞き献立を考えている。気候が良い時は庭での食事等も実施している。	調理の下ごしらえや食器拭き等、できることを見つけ、職員と一緒に取り組んでいる。予め献立表を作ることとはせず、当日の調理担当者がメニューを決めるため、刺身やカレー等、食べたいものをメニューに組み込み提供することができている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の水分量を記録し、必要な水分量の確保が出来るようにしている。また食事摂取量の観察、記録も行い、月1回の体重測定等にて健康管理を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、口腔内の清潔保持ができる様に支援している。利用者の能力に応じた支援となっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間の排泄チェックを行い、排泄パターンを確認し、利用者に応じた誘導、声掛けを実施している。できる限りトイレでの排泄を実施し、状況に応じて紙パンツ、オムツ、ポータブルトイレの使用をしている。	排泄チェック表を参考にしながらトイレ誘導やパット交換につなげている。なるべくおむつ等、排泄用具に頼らないよう日中はトイレでの排泄を基本とし、また、統一した介助が行えるようケアプランに組み込み支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録している、水分補給と食事の工夫や適度な運動など実施している。必要時は主治医へ相談し対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴を実施している。入浴に余裕のある時間を作り、個々にあった入浴と介助者が声掛けしながらゆっくりと楽しい時間を過ごしていただく様にしている。一人介助で浴槽に入れない方は、入れる様に二人介助を実施している。	週2回の入浴日を設けているが、トイレに失敗した時等は、その都度入浴して体を清潔にしている。一番風呂の希望に合わせたり、入浴をためらう際は、声掛けのタイミングを見計らい入浴につなげる等、無理強いのないようにしている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて、いつでも寝ることが出来るように環境を整え、夜間気持ち良く眠ることが出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指示、指導、申し送りノートや薬手帳を活用し、薬の変更等の情報を共有している。協力調剤薬局の助言等もらいながら服薬の支援をしている。往診診察時は施設での状況等を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力、状況に応じて、調理、食器の片付け、洗濯物たたみ、シーツ交換等を声掛けしながら一緒に実施している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩や希望時は自宅訪問等、ご家族の協力を得ながら実施している。気分転換にドライブ等実施している。	コロナ禍のため、これまでのように自由に外出することは困難だが、長時間屋内に留まる時間が長いとストレスにつながるため、初詣や鶴見物、季節の花見に出かける等、人混みを避けた場所に出かける機会を作った。また、屋外でお弁当を食べたり、ホットプレート調理を楽しむ等、工夫して取り組むことができた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金の管理は本人、家族との相談で実施しているが、管理できない方は、施設で小遣い程度預かり、必要に応じて使用している。出納帳にて管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はいつでも受け付け、また希望があった場合特別事情が無い限りはいつでもかけることが出来る。また、新型コロナウイルスにて、オンラインビデオ電話も活用している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、その季節ごとの飾り付けを行っている。天窓からの自然な光を取り入れながら、エアコン、空気清浄機、加湿器等で過ごしやすい環境設定に取り組んでいる。	フロアには利用者と職員と一緒に作った季節毎の作品が飾られ、明るい雰囲気が感じられる。馴染みの言葉の方がわかりやすいと職員の意見を受け、「トイレ」の案内を「便所」に変えて表示している。感染症対策として大型の空気清浄機と加湿器を備えると共に、こまめな消毒にも気を配り対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、仲の良い利用者や職員との交流を楽しむことができる。家族との面会や読書などの時間を楽しく過ごすようにプライベートに過ごすことが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等の持ち込みに協力して頂いている。また、写真等を用いて、利用者や職員と一緒に昔話など行っている。居室の飾り物などは、本人の意向に応じて設置している。	エアコンと電動ベッド、洗面台が備え付けられるほか、歩行器や車椅子、リクライニング車椅子も自由に使えるよう準備している。自宅から持ち込まれたテレビや写真等を自由に配置してもらうことで居心地に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やテーブルの高さ調整など、利用者の状態に応じて移動し易い環境を造り、光は自動センサーを利用し安全に移動できる環境となっている。必要に応じて、施設で歩行器、車椅子等を準備し、安全な生活ができるようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない